



オーストラリアの人事攻略で成功する為には  
その102

先日10年以上海外駐在をされている方から“日本人は仕事をする為に休暇を取るのに対して、優秀なドイツ人でさえ休暇の為に仕事をする。”というお言葉を頂きました。小生が日本で学生の時に外国人の先生に“日本人はLive to Workで有るのに対して欧米人はWork to Liveである。”と言われた30年前の言葉を思い出しました。

どうして、“Live to Work”と“Work to Live”の差が出てしまうのか？一つは宗教の違いかと思料されます。キリスト教は地上の全ての生き物は人間の為に存在すると教えます。従って、チャールズ・ダーウインの進化論を全面的に否定致します。何故ならば人間は神のコピーであるからです。此れに対して、仏教は生き物全てを平等視します。つまり、人間である自分だけが特別に宇宙の全能の神から恩恵を受けると信じるか生き物全て平等と信じるかの差であるかと思われれます。

仏教徒が“Live to Work”であるのに対してキリスト教が“Work to Live”であれば、オーストラリアで人材管理をする場合宗教の隔差を忘れてはなりません。仕事で大成を目指す日本人が人生を楽しむ為に仕事をするオーストラリア人をマネージ出来るのでしょうか？

人生を楽しむ為に仕事をするのでありますから、仕事をする事により人生が更に楽しめると思わせる事がオーストラリア人社員の動機付けになるはずですが。鉦山で働く労働者は2週間働くと1週間のお休みが頂けるそうです。働いている2週間は単にお休みの事だけを考えているのでしょうか？

キリスト教信者は、イブが林檎を食べなければ人間は仕事をせずに生活出来た訳でありますから、彼らにとって仕事は罪に対する罰であります。罰は誰しも避けたいものであります。先月の日曜日とオーストラリアン・デーに挟まれた月曜日は何と仮病で入社しない社員が4割に達したそうです。

結局の所、社員に仕事を遊びであると思わせる事が重要であります。遊びでありますから仕事は楽しく罰を受けているという意識が無くなります。会社で社員がラグビーの試合を楽しんでいる様な職場環境作りが必要なのかもしれません。